

# 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区(仮称) 基本構想検討委員会（第2回）

## ●検討資料骨子

### I. 利用者像の検討

- ・ 休日と平日の利用者数、利用者の性格、周遊行動に格差があることが特徴的である。
- ・ 高松塚地区あるいは石舞台地区を起終点として2～3箇所の公園をめぐるパターンが多い。
- ・ キトラ古墳周辺地区整備においては、飛鳥駅やこれまでの主要周遊ルートと離れているため駐車、駐輪場の整備や情報案内、村内周遊のための新たな手段、近鉄壺坂山駅からの入込についても検討する必要がある。

### II. キトラ古墳周辺地区（仮称）整備の考え方

#### 1. 基本方針と展開方向

- (1) キトラ古墳の保全整備計画と連携し、人々に感動を与える古墳周辺環境の整備を図る
  - ・ 国家的にみて重要な歴史的遺産であるが、周辺地区は飛鳥地方の中でも法的規制の緩い地区でもあるため史跡本体の保存とともに周辺地区を国営公園として一体的に保全整備を図る。
  - ・ このため、文化財の周辺環境も含めた保全を図るとともに、人々に感動を与える文化財周辺環境を創出する。
- (2) 飛鳥の歴史的風土を味わいながらゆったりと過ごせる公園空間の整備を図る
  - ・ 斜面地や小規模な棚田集落と隣接し、中景に高松塚古墳や畝傍山、遠景に金剛葛城山系を望む独特の風土・景観を保全する必要があるとともに、国民の自然とのふれあい志向や地域における文化財・歴史的風土の創造的維持活用への動きと連動した公園整備が必要である。
  - ・ このため、自然・人文環境が一体となった歴史的風土の保全、歴史的風土を生かした散策・休養・展望等の活動への対応を図る。
- (3) キトラ古墳の解説を通じ、飛鳥の歴史に関する情報発信・学習機能の提供を図る
  - ・ 近年の考古学・歴史学への国民の関心の高まり、国際化時代における歴史教育の重要性、解説ボランティア等の活動要請などを受けとめることが必要である。
  - ・ このため、体験的学習の重視、キトラ古墳にまつわる展示の場、文化財を通じた体験的歴史学習の場、体験を知恵に深める機会の創出を目指す。
- (4) 質の高い利便性・サービスの提供及び新しい維持管理手法の導入を図る
  - ・ 飛鳥地方における観光利用者の利便性の向上、新しい公園維持管理手法への対応、利用者の利便性の向上が求められる。
  - ・ このため、市民参加による維持保全活動の導入、新しい公園維持管理手法への対応した管理施設の整備等を図る。

## 2. 導入機能

整備の基本方針及び利用者の意向等を考慮し、キトラ古墳周辺地区では以下の機能の導入を検討する。

- 1) 古墳周辺環境の保全・修景整備機能
- 2) 田園環境の保全創出機能
- 3) 休息・展望・散策機能
- 4) 体験学習機能
- 5) 便益管理機能

## 3. 空間構造の把握と分析

木目細かく、多様性に満ちた空間構成を有するキトラ古墳周辺地区を小ブロックごとに区分し、現況土地利用、傾斜、斜面 方向、湿潤条件等の自然・立地条件及び、地区内外への視点場、地区内外からの視対象としての重要性から重要なブロックを抽出する。

この上で、キトラ古墳の保存、歴史的風土保存、体験的歴史学習、公園の利便性の4つの観点から地区の評価を行い、ゾーニング検討の基礎資料とする。

## 4. 空間緒元の検討

過去における国営飛鳥歴史公園の利用者数の推移等を基礎に、キトラ古墳周辺地区全体が整備された場合の全体利用者予測及びキトラ古墳周辺地区での分担率等を総合的に勘案し、利用者予測を行った。また、予測をもとに広場、駐車場等の必要規模を検討する。

## 5. ゾーニング計画

キトラ古墳本体の保存、周辺の歴史的風土の保全活用を一体的に図るべき概ねの区域を検討する。この上で、地区内の立地、自然、景観等の条件を考慮し、以下のゾーニング計画を行う。

### ■古墳及び周辺環境保全エリア

- ・古墳保全ゾーン
- ・古墳鑑賞ゾーン

### ■体験学習エリア

- ・歴史体験ゾーン（展示施設、歴史体験広場）
- ・風景創出・鑑賞ゾーン

### ■歴史的風土保全活用エリア

- ・田園環境創出ゾーン（棚田、里山）
- ・休憩ゾーン
- ・展望ゾーン

### ■便益エリア

- ・エントランスゾーン
- ・管理ゾーン